

研 修 部 だ よ り

筑波大学附属視覚特別支援学校

筑波大学公開講座

2月15日(木)16日(金)に筑波大学附属視覚特別支援学校にて、盲・弱視児童生徒理科実験指導研修講座が開催されました。以下、参加された岩橋先生からの報告です。

研修内容

視覚以外のさまざまな感覚を使って水の量をはかったり、色の変化を見分けたりする実験基礎や、観察の基本となる触察について。

理科実験の体験。準備や発問の仕方について。

特筆すべきこと

- ◆触察により、視覚的情報を得ることができる
- ◆生徒の良い観察には心から共感を示して褒め、生徒の観察を側面から援助する態度で臨み、生徒を発見者の立場に立たせるよう留意する必要がある。
- ◆生徒の心理的ハードルを下げ、知っているところからはじめる。
- ◆点字教科書編集資料をよく読むこと。
- ◆多量の練習問題を解かせない。(少ない問題を丁寧に、頭を使って解く)

視覚障害教育研究協議会

2月17日(土)に筑波大学附属視覚特別支援学校にて視覚障害教育研究協議会が開催されました。

午前中は幼稚部・小学部・中学部・高等部の授業公開と理学療法科の紹介、分科会。午後からは6つのテーマに分かれた研究協議会でした。以下、テーマ3「視覚障害を伴う重複障害児の豊かな表現力を育む指導 ～一人一人の障害特性や発達の状況を理解した指導を目指して～」についての報告です。

豊かな表現力とは

- ◆感情や思い、考えなどの心の動きが込められていること
- ◆子どもにとって多彩な意味をもっていること
- ◆言葉(話し言葉)に表しきれない心の状態(内面世界)を相手(教師や友だち)に託していること

研究の実際

- ◆アセスメント(広 D-K 式視覚障害児用発達診断検査)を実施する
- ◆日々の指導を記録し、定期的に事例児の変容や指導の効果を検討する
- ◆学級・学年の教師、外部講師、共同研究者と授業検討を行う

指導の経過

- ①触って確かめる、触れられて感じる安心感を得ること(友だちや教師を触って確認できる環境設定)
- ②教師との対話を通して、児童が自分の心身の状態を知ること(不安なとき、やりたくないとき、児童の気持ちを受け止めて、相談することを積み重ねる)
- ③教師や友だちとの心地よい関わりの中で、楽しい経験を多く共有すること(児童の好きなことを学習に取り入れる。児童が好きな楽しい表現を共有する)
- ④点字が意味のあるものとなり、確かめられる安心感となること(漠然としていたことが明確に)
- ⑤分かる、できる喜びが自信となり、知りたい、学びたいという意欲に繋がること

重複障害児への教育で大切にしたいこと

- ◆一人一人のねがいを知りわかろうとすること
- ◆一人一人のねがいに応じるための教育内容を考え続けること
- ◆「見えない」「見えにくい」子どもたちの世界を想像し、寄り添い、分かろうとすること
＝子どもに学ぶこと。広い視点を持ち、実践すること